

2024 年度「オーストラリア現地実習」 参加レポート

国際交流学部 国際交流学科 2 年

私が生活面で感じたことは、オーストラリアの環境問題に対する意識の高さです。

私が現地で受講していた授業はすべて環境問題に関連した題材を扱っていました。知らない単語も多くやりがいを感じていた反面、環境問題に関連した単語を覚えて日常生活で役に立つのだろうかという疑問も感じていました。しかし、フェリスのカリキュラムとして訪れた動物保護園や国立公園、ホストマザーとの会話、日々の生活の中でも環境問題について考え話すことが多くありました。

この理由として、オーストラリアが自然豊かな国であることに加え、オーストラリア人が日々環境について考える機会があることが挙げられると考えました。オーストラリアのニュース番組では、森林破壊や、天候、再生可能エネルギーといった環境に関連する話題が多かったと感じました。また、新しく買ったニベアの容器にも、日本で売られている同じ商品にはない、リサイクルが可能なマークが表示されていました。日本は先進国の中でも、3R や植樹を積極的に行っており、環境保全への取り組み意識が高いと思っていましたが、今回の実習を通してオーストラリアに比べればまだまだだと感じました。

勉強面においては留学が初めてでも安心して学べる国だと感じました。日本人の割合が圧倒的に多く、もしついていけなくなっても日本語で相談ができます。また、コミュニケーションを英語でとることはできるけれど、文法や読解ができないアジア系の方がクラスに 3~4 人ほどいたため、英語の実践的な会話をすることもできました。最初は初めての海外渡航であったこともあり不安だったのですが、日本人の多さにとても安心しました。

ホームステイ先でも、意思疎通が出来ないといったことはなく、分からない単語もわかりやすい言葉に言い換えて会話してくれるため、直ぐに環境に慣れ気楽に英語を話すことができました。短期留学を希望していて、日本語の通じない環境に身を置きたいと考えている場合、語学プログラムのレベルの高いクラスに入れるように英語を勉強してから参加することをお勧めします。レベルの高いクラスには、日本人が少なく南米や北欧系の人が多く、日本語の無い環境に身を置くことができます。ただ、オーストラリアは留学に不安を感じている学生には本当におすすめしたい場所だと感じました。授業中にも沢山英語を話す機会があるため、十分英語力は伸びます。私はこのディスカッションのおかげで、わからないものはわからないと言う、文法を間違えていても発言するという自信が確実につきました。知識は多少あるけれど話せる自信がない、私のような人にはぴったりの実習だったと感じました。



以上